

数を追う旅

後藤 健

生来、数字を追っかけるクセがあって何事も最後の数字に到達するまでが気になる性格である。

これまで四国八十八カ所のお寺めぐり、47全都道府県に足を踏み入れた。宿泊出来なかった県は必ず駅前の食堂に入り、店主や客と会話を交わした。

完歩を目指した日本百名山の全山登頂はついにならなかった。

百名山は現役時代、遠方の東北、北海道を優先的に済ませたあと、近場の山を適宜、終わらせた。

東北、北海道はエリアが広く、岡山からは一度の旅で一週間の時間を要した。何とか休暇を取り、家庭を顧みず出かけた。

北の地域はお世話になった人たちや宿の人たちはいずれも素朴な人が多く、いつも心が癒された。

北海道では夕張に立ち寄り、民家の人と接することがあった。そこではおいしい夕張メロンをご馳走になった。当時から夕張は石炭産業の不況で町に賑わいはなかった。

私も同じ九州の炭鉱に生まれ、地域の不況を身をもって体験した者としてその境遇を理解して、気持ちに折り合った。

北海道は毎年の雪下ろしの苦労話が印象的だった。経済的にも負担が多く、大雪は現地では生活に直結する苦労が

つきまとう。アイヌの人々の身の上話を聞いた。

中部山岳地方は北アルプス、日本アルプス、南アルプスに固まっているので楽観視、最後に残していたが、予想外の退職後の体調不良のため断念した。

百名山の旅は地域を知ることに関わり、いろいろな情報を得ることができた。

国内の世界遺産にも挑戦した。日本には現在世界遺産が21、このうち文化遺産が17、自然遺産が4

自然遺産の屋久島は印象深い登山だった。海上から頂上までは熱帯気候、亜熱帯気候、温帯気候に分類され、山の様子が変化し、登山道は荒れていた。

山頂では多くの杉の木が枯れが目立ち、ほとんど丸裸の状態だった。全国の大学登山部の人気の山で、私の登山中に東大、福島大と同行の登山だった。

自然遺産の小笠原諸島など2011年以降登録の遺産は残念ながらまだ残っている。できたら元気なうちにこの数字も埋めたいものだ。

地方の旅は有名な観光地だけでなく、隠れた逸話があったり、人知れず自慢の名所があったりで旅の醍醐味を満足させてくれる。

数を追う意欲はまだ健在だが、最近では体調不良のため、旅に出ることが少なくなった。

作者 後藤 健 題名 数を追う旅

原典 山陽新聞夕刊エッセー 掲載日 2019.2.21